

2019年和牛甲子園最優秀の 田中里佳先生 母校で後進指導

和牛甲子園最優秀賞メンバー 教員となり後進指導



飼育する牛の様子を見る田中さん(右)と来さん(左)も岐阜県飛騨高山市で

生徒らが見つめる「現場での実習を通して、畜産にはいろいろなお仕事関わっていることを知り、興味を持ってきた」という。

「現場での実習を通して、畜産にはいろいろなお仕事関わっていることを知り、興味を持ってきた」という。

高校牛児 母校に帰る

「高校牛児」が母校に帰ってきた。全国の高校生が和牛肥育の技術を競う「和牛甲子園」で、総合評価部門最優秀賞を果たした岐阜県立飛騨高山高校のメンバーだった田中里佳さん(22)が、教員として母校に戻ってきた。自身が魅了された地元ブランド牛「飛騨牛」に携わる人材を育てたいという思いを胸に、教員の道を選んだ。

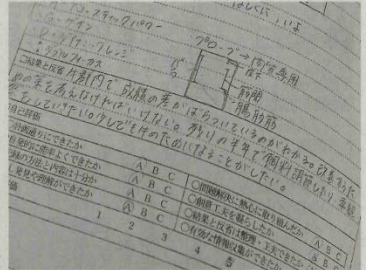
岐阜県立飛騨高山高
田中里佳

牛のためになることを—— 高3で記した思い胸に

「増やしたい」と教員を志すようになった。先輩らに続いて全国の頂点に立った2019年の和牛甲子園で、「飛騨牛の新時代は私たちが築く」と題して仲間と共に雌牛の肥育方法を発表。県内で血統が受け継がれてきた飛騨牛の歴史の重みに触れ「この血統を途絶えさせたくない」と、飛騨牛に携わる人を増やしたいと思う気持ちが強くなった。

教員を目指す、北海道の酪農学園大学に進んだ後、家畜人工授精師や家畜受胎期移植師(体外・体内)、繁殖師の資格を取得。現在は同校の動物科学科で1年生の副担任や進路指導、教科「飛騨牛」などを担当する。

同校は今年、和牛甲子園に出場する予定。自身の経験を生かし、生徒に「日常の管理が最終的なところにつながる」と指導。日頃から丹念に牛を観察し、些細な変化にも気を配るよう促す。



飛騨高山高校に保管されている高校3年生の時の記録簿。「少しでも牛のためになることがしたい」と書き記していた